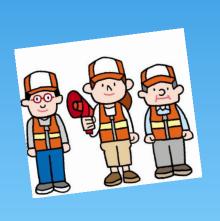
ラッキーバス 運輸防災マネジメントについて

~自然災害への対応に関する運輸安全マネジメント









ラッキーバスは、旅客自動車運送事業者として輸送の安全を確保するために、 従来から行っている運輸安全マネジメントの一環として、社長をはじめ社員一丸 となって、自然災害への対応力を向上させ、防災構築および実践に取り組んで まいります。

防災マネジメントに関する基本的な考え

- 1. 運輸安全マネジメントの一環として、社長を筆頭に、災害に立ち向かうための防災体制を整える。また、全従業員が自然災害への対応力を身に付けることができるよう教育訓練等を行い、万が一に備える。
- 2. 日頃から、全従業員に対して「自然災害」対する意識付けを行い、災害時、被害拡大を未然に防ぐよう努め、安全の確保と事業の維持を実現させる。
- 3. PDCAサイクルによるスパイラルアップを定期的に行い、平時の備えを基本として、自然災害直後における迅速な初動対応と早期復旧活動が可能となるよう努める。
- 4. 輸送の安全に関する情報については、積極的に公表する。

運輸防災マネジメントの 行動指針

防災体制 の構築

防災への 取組

事業継続MGT の取り組み

防災に関する教育訓練の実施

ラッキーバスは、

「防災体制の構築」、

「防災に関する教育訓練の実施」、

「事業継続マネジメントへ取り組み」を軸 として、運輸防災マネジメントを行ってい きます。

運輸安全マネジメント同様に、経営トップが輸送の安全確保が最も重要であるということ、その中に「防災」があり、普段からの備えが大切であること、従業員が1つとなって意識を高めることが大切だということを社員に浸透させます。

また、防災に関する計画のPDCAサイクル(策定、実行、チェック、改善) スパイラルアップを繰り返し、確立した 輸送の安全を構築してまいります。

安全輸送に関する重点施策

行動指針を確実なものにするために以下の重点施策を掲げる。

①防災体制の構築

防災マネジメントの組織図を作成し、従業員へ周知する。防災マネジメントに係る計画書を作成する。

② 備え(準備)

計画書を基に、職種別に災害に備えるために必要なものや事柄を整える。

③教育訓練

安全統括管理者が、従業員に対して教育訓練を行う。教育訓練時に「防災」の重要性を従業員に理解させ、意識付けを行う。

4連携

同業者や地方自治体、国の行政機関などとの連携できるよう、さまざまな機関との連携ができるよう準備をする。

⑤ 事業継続マネジメント

事業継続マネジメントを行い、先を見据えた防災体制を確立させる。

予測可能な災害への対策

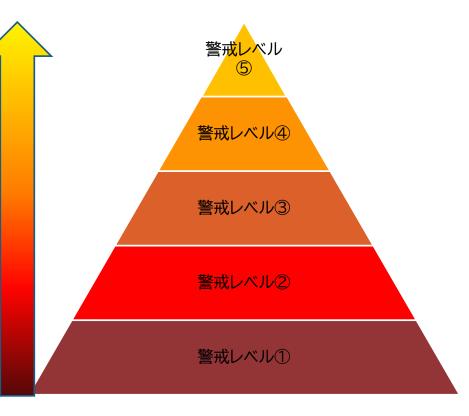
- ◆予測可能な災害への対策(豪雨・台風・大雪・火山の噴火など)
 - ①自社ならではの警戒レベルの構築
 - ②乗務員への運行指示ルールの確立
 - ③独自の災害時対応チェックシートの作成※乗務員、ガイドの意見を取り入れたもの
 - ④掲示用のハザードマップの作成
 - ⑤緊急時の対応についてのマニュアルの作成
 - ⑥全車両へマニュアルの設置

予測不可能な災害について

- ◆予測可能な災害への対策(地震・津波・竜巻・火災・ミサイル)
 - ①乗務員への運行指示ルールの確立
 - I. 運行前の乗務員への指示
 - Ⅱ. 運行中の乗務員への指示
 - ②緊急時の対応についてのマニュアルの作成
 - ③全車両へマニュアルの設置

当社における警戒レベルの目安

行動目安として、自社オリジナルの警戒レベルを設定する。



警戒レベル⑤・・・地域行政の指示に準じた避難 行動をとる

警戒レベル④・・・警戒・警報の発令に準じ人体・ 生命を最優先とした避難行動 をとる

警戒レベル③・・・警報に準じ次段階を踏まえた安全な回避行動をとる

警戒レベル②・・・注意報に準じ次段階を警戒する準備行動を開始する

警戒レベル①・・・早期警戒情報を常時受け取る 体制を保持する

当社における警戒レベル時の行動

		大雨·豪雨	台風	大雪	火山噴火	熱中症
警戒レベル	バス(運行中の場合)					
宣成レバル	車庫					
	事務所		安否	ら確認・情報集約・	誘導	
警戒レベル	バス(運行中の場合)		安全を確		屋外活動の中止	
4	車庫		屋外活動の中止	_	屋外活動の中止	
	事務所					
警戒レベル	バス(運行中の場合)		安全を確		通達·判断	
3	車庫		屋外活動の中止	_	注意	
	事務所		安全確	認・誘導		注意喚起
警戒レベル	バス(運行中の場合)	注意して運行			通報·指示確認運行	注意喚起の周知
2	車庫	対処行動(配置転換·撤収等)		_	注意して活動	
	事務所	運行車	車輌の安全確認・情	報提供	状況確認·指示	注意喚起
警戒レベル ①	バス(運行中の場合)	_	_	_	_	_
	車庫	_	_	機材確認	_	_
	事務所	情報注視				

【参考資料】大雨・台風時における警戒レベルの目安

危険度の高まりに応じて段階的に発表される防災気象情報とその利活用

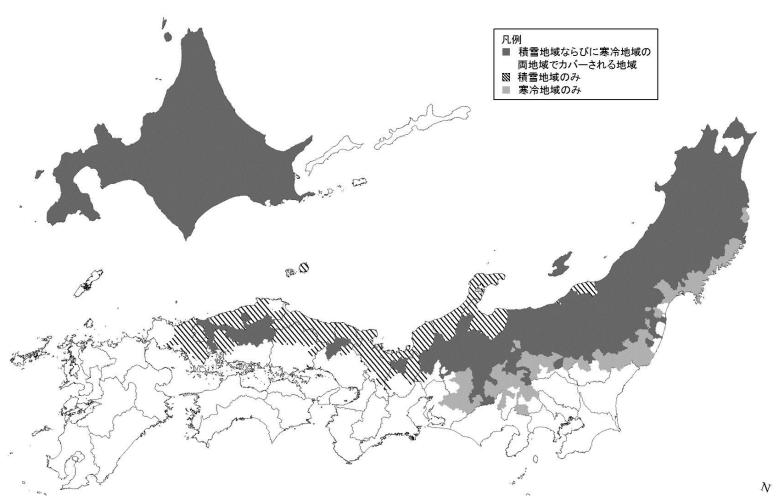
気象状況		気	象庁	等の情報		市町村の対応	住民が取るべき行動	警戒 レベル
大雨の 数日~ 約1日前	早期 注意情報 (ご報級の 可能性)					・心構えを一段高める・職員の連絡体制を確認	災害への心構えを高める	1
大雨の 半日〜 数時間前	大雨注意報 洪水注意報	高		危险度分布		第1次防災体制 (連絡要員を配置)	八ザードマップ等で避難行動を確認	2
-	大東警報に 切り替える 可能性が高い 注意報	1	競	注意報級)	氾濫 注意情報	第2次防災体制 (避難準備・高齢者等避難開始の 発令を判断できる体制)		
大雨の 数時間 ~2時間 程度前	大雨警報 洪水警報	高潮 切り 一切り 一切り 一位	好る が高い	警 戒 (警報級)	氾濫 警戒情報	遊費進作·高齢者等避費開始 第3次防災体制 (選攤店の発令を判断できる体制)	土砂災害警戒区域等や急激な水位上昇のおそれが ある河川沿いにお住まいの方は、 避難準備が整い次第、避難開始 高齢者等は速やかに避難	3
	土砂災害 警戒情報	高潮	高潮 特別	非常に 危険	氾濫 危険情報	避難勧告 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	速やかに避難 ・危険な区域の外の少しでも安全な場所に速やかに 避難	4
数十年に		警報	警報	極めて 危険		遊難指示(緊急) ※緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令	避難を完了 ・道路冠水や土砂崩れにより、すでに避難が困難となっているおそれがあり、この状況になる前に 避難を完了しておく	
数十年に 一度の 大雨	大雨 特別警報				氾濫 発生情報	災害発生情報※可能な範囲で発令・大雨特別警報発表時は、避難勧告等の対象範囲を再度確認	危険な区域からまだ連難できていない方は、 命を守るための最善の行動をとる ・大雨特別警報発表時には、災害が起きないと 思われているような場所でも危険度が高まる 異常事態であることを踏まえて対応する	5

^{※1} 夜間〜翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、避難準備・高齢者等避難開始(警戒レベル3)に相当します。

^{※2} 暴風警報が発表されている際の高潮警報に切り替える可能性が高い注意報は、避難勧告(警戒レベル4)に相当します。

【参考資料】大雪時における警戒レベルの目安

地域により発生頻度に差があるため、地域区分をレベル目安と設定



【参考資料】火山噴火時における警戒レベルの目安

t∉ Dil	D III	14 M	レベルとキ・	_n_ r	説明			
種別	名 称	対象範囲	レベルとナ	- J - F	火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者への対応	
2007 ±173	竹が門八百和	居住地域 及び それより 火口側	选择		居住地域に重大な被害 を及ぼす噴火が発生、あ るいは切迫している状態 にある。	危険な居住地域から の避難等が必要(状 況に応じて対象地域 や方法等を判断)。		
			200		居住地域に重大な被害 を及ぼす噴火が発生する と予想される (可能性が 高まってきている)。	警戒が必要な居住地 域での避難の準備、 要配慮者の避難等が 必要 (状況に応じて 対象地域を判断)。		
警報	噴火警報 (火口周辺)	火口から 居住地域 近くまで	入山規制		居住地域の近くまで重大な 影響を及ぼす (この範囲に 入った場合には生命に危険 が及ぶ) 噴火が発生、ある いは発生すると予想される。	通常の生活(今後の 火山活動の推移に注 意。入山規制)。状 況に応じて要配慮者 の避難準備等。	登山禁止・入山規制等、危険な地域への立入規制等 (状況に応じて規制 範囲を判断)。	
	又は 火口周辺警報	火口周辺	火口周辺 規制		火口周辺に影響を及ぼす (この範囲に入った場合 には生命に危険が及ぶ) 噴火が発生、あるいは発 生すると予想される。	通常の生活。	火口周辺への立入 規制等 (状況に応 じて火口周辺の規 制範囲を判断)。	
予報	噴火予報	火口内等	活火山であることに留意	3	火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、 火口内で火山灰の噴出等が 見られる(この範囲に入った 場合には生命に危険が及ぶ)。	進市が土冶。	特になし(状況に 応じて火口内への 立入規制等)。	

熱中症における警戒レベルの目安

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針		
35°C以上	31°C以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。	
31~35°C	28~31°C	厳重警戒 (激しい運動は中 止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温 が上昇しやすい運動は避ける。 10~20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。	
28~31°C	25~28°C	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。	
24~28°C	21~25°C	注意 (積極的に水分補 給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に 水分・塩分を補給する。	
24°C未満	21℃未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は 必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので 注意。	

出典:(公財)日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(2019) 運動に関する指針

緊急災害時の対応の流れ(1)

現場と事務所の行動フロー

営業所

災害対策本部 立ち上げ

情報収集

- •災害内容把握
- •地区発信内容
- •道路状況
- •避難状況
- •関連災害状況

安否連絡

- •乗客関係者
- •乗務関係者

手配調整

- •避難時宿泊先
- •避難時飲食

災害本部長 (代表取締役社長)

③災害発生連絡

安全統括管理者

③災害発生連絡

統括運行管理者

③災害発生連絡

情報交換

⑤乗客関係者連絡

⑥乗務関係者連絡

⑦その他連絡

関係各所

災害発生 地区

運行車輌

地区行政

④運行•運休指示

①被災通報

電話・無線連絡が不能な場合

災害伝言ダイヤルを使用する

※災害チェックシート参照

②安否確認状況聴取

随時:環境情報連絡

随時:避難関連情報

目的:安全に帰庫するまで誘導する

緊急災害時の対応の流れ2

夜間災害時運営プロ

※営業所不在時

①被災通報

電話・無線連絡が不能な場合 災害伝言ダイヤルを使用する ※災害チェックシート参照

②安否確認状況聴取

運行車輌

災害発生

地区

地区行政

④運行•運休指示

随時:環境情報連絡

随時:避難関連情報

営業所

災害対策本部 立ち上げ

情報収集

- •災害内容把握
- •地区発信内容
- •道路状況
- •避難状況
- •関連災害状況

安否連絡

- •乗客関係者
- •乗務関係者

手配調整

- •避難時宿泊先
- •避難時飲食

是加加竹

緊急参集

統括運行管理者

③災害発生連絡

安全統括管理者

③災害発生連絡

災害本部長
(代表取締役社長)

情報交換

⑤乗客関係者連絡

⑥乗務関係者連絡

⑦その他連絡

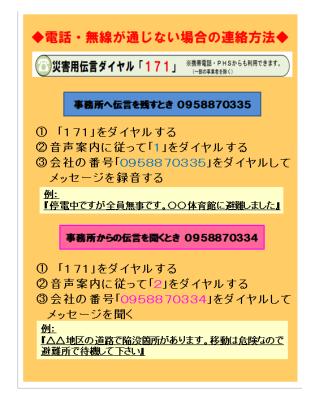
関係各所

目的:安全に帰庫するまで誘導する

災害時の対応をスムーズにするために

災害時に乗務員、ガイド、運行管理者が迅速な対応ができるよう、当社オリジナルのチェックシートを作成し、保有するすべての 車両に設置しております。

災害対応チェックシート ■乗員・乗客の所在を確認 **乗員・乗客全員の確認ができたか** → 〇 ・ ★ **★だった時、確認できない人数は?** ____人 **乗員・乗客に怪我人はいないか** → ○ ・ × ★だった時、怪我人の人数は? ____人 |今いる場所の安全を確認 雨・風を避けることができているか → 〇 ・ ★ 建物の倒壊の恐れはなさそうか → O · × 周辺の状況は見えているか (電気は点灯しているか) 周辺に他の人はいるか ※チェックが済んだらすぐに本部へ連絡 TEL 095-887-0335 または TEL 090-2505-8304



防災時への対策

~起こりうる災害への対応のために①~

当社では、災害時への対策として定期的に従業員を対象とした研修会を行っております。











防災時への対策

~起こりうる災害への対応のために2~

長崎県内や九州各地で起こりうる災害の可能性を乗務員やガイドとともに考え、まとめたものを独自のハザードマップとして掲示しております。また、リスクマネジメントの一環として防災意識の向上に役立てております。

